

氏名	田村佳士枝	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1987年聖路加看護大学看護学科、2003年聖路加看護大学大学院修士課程				
経歴	1993年千葉県立衛生短期大学講師、2003年聖路加看護大学助手、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年同大学准教授				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本看護科学学会、日本小児保健学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	入院中の子どものセルフケア能力・親のケア能力の向上に関連する尺度の開発	共同	日本小児看護学会第30回学術集会 神戸市		○長谷美智子、櫻井育穂、辻本健、瀧田浩平、添田啓子、田村佳士枝、中田尚子	2020.9
2	オレムセルフケア不足理論を取り入れた組織的教育介入の効果 事例検討会により看護師が認識した実践の変化	共同	日本小児看護学会第31回学術集会 神戸市		○添田啓子、望月浩江、田村佳士枝、櫻井育穂、辻本健、瀧田浩平、古谷佳由理、中田尚子、株崎雅子、近藤美和子、黒田京子、長谷美智子	2020.9
3	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護記録監査結果から捉えた看護過程の課題	共同	日本小児看護学会第32回学術集会 神戸市		○中田尚子、沖田淳也、株崎雅子、近藤美和子、黒田京子、添田啓子、古谷佳由理、田村佳士枝、櫻井育穂、望月浩江、辻本健、瀧田浩平	2020.9
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	日本学術振興会科研費基盤研究(C)	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の定着・評価		研究代表者：添田啓子 研究分担者：田村佳士枝	2019年度～2021年度	
2	日本学術振興会科研費基盤研究(C)	骨延長術を受けることを意思決定し取り組む思春期の子どもに向き合う親の思い		研究代表者：田村佳士枝	2020年度～2022年度	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
1	小児看護学Ⅱ		2コマ	2年次生を対象に、小児の周手術期の子どもとその家族の看護について事例を活用しon-lineにて講義を行った。専門病院看護師の方にゲストスピーカーとして、周手術期の看護の特徴を講義いただく調整を行った。		
2	小児看護学Ⅲ		15コマ	2年次生を対象に、2グループ・1事例のPBLテュートリアル授業のファシリテータを担当した。発表会では、発表の進行および質疑応答を通して全体像の共有を図った。		
3	小児看護学Ⅳ	○	15コマ	3年次生を対象に急性感染症罹患の乳児事例の看護展開および小児看護特有の技術についてワークシートを用いてWeb学習および技術練習を実施し、修得を支援した。		
4	子どもと家族のヘルスプロモーション		8コマ	小児専門病院における在宅連携部門での実践について、on-lineにて事前学習を支援し、インタビューおよびそのまとめの指導を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	卒業研究拡大ゼミ		8コマ	小児看護学領域の卒研担当学生と教員が参加してon-lineで開催した。研究の進捗状況に沿って、研究テーマ・目的、結果を2回にわたって開催し、共有し学びの場として活用した。また、卒研発表会の準備・調整・運営を行っている。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2020.11~2020.12	3年生27名を4クール8週間にわたって、on-line実習を実施した。子どもと家族の個別性に沿ったアセスメントおよび全体像検討・計画立案について学びを深めることができた。また、2週目に事例の中のトピックスに向けての文献検討および質問事項を検討し、臨床看護師にインタビューすることで、実際の看護の理解を深めた。
2	IPW実習		2020.10.	各学科の学生6名を担当し、on-line実習を行った。紙上事例をもとに、主体的な検討を推進し事例の理解および計画立案から学びを共有した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2020.3~2020.1	主指導 2名	副指導 2名
2	修士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
3	博士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	オレム理論導入のための事例検討会	埼玉県立大学および埼玉県立小児医療センター	県内小児専門病院におけるオレム理論導入のために、年に3回の事例検討会、集合形式ワークショップに参加し、ファシリテートを実施した。	2020.7-2021.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	新聞社からの卒業生取材対応	コロナ感染状況下における卒業生への新聞社取材のための人選および取材対応を事務局と調整し、実施した。	2021.3	
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	学生支援委員会 4月入学生の学年間交流を、8月のスペシャルイベント開催時に、2年生の協力を得て開催した。各種学生団体の座談会を6月初旬に計画・開催し、その後、学園祭、サークル活動、新入生歓迎会開催につなげていくことができた。また、食育支援は例年と内容を変更し、栄養素であるビタミンDについて健康開発学科の内山先生に解説いただき、保健センターだよりにて配信いただいた。		2020.4-2021.3
2	学科等における委員会等	実習計画調整会議 担当施設の実習実施の可能性についての情報収集および後期科目間の調整を行った。また、感染対策を領域間で確認し、学生の実習に向けた準備を検討・推進した。		2020.4-2021.3

3	学科等における委員会等	<p>学生支援委員：就職支援PJ会議および国試PJ会議の開催および各事業の推進を実施した。教務・学生支援会議の学生状況のとりまとめを行い、情報共有を行った。</p> <p>学科内の担任業務遂行のための情報共有、身分異動に係る情報提供、学年間交流の推進・報告書による報告を行った。</p> <p>県立病院推薦選考および自己推薦のための、要項作成および運営会議への提案を行った。また、推薦者への面接練習会を企画・実施し支援を行った。</p>	2020.4-2021.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
受賞名		主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			